新古今和歌集

特別
へ4
8152

新古今和歌集巻第十一

憲哥一

題志ノ頃

よ刀人人しり頃

[illegible]

人麿

[illegible]

在原業平朝臣

春日野の若しけれ[illegible]

中将の更衣[illegible]

延喜御哥

[illegible]

題志ノ頃

中納言兼輔

[illegible]

平貞文家哥合ニ

坂上是則

[illegible]

人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せし

大納言後賢母

諸ゝて小ぬれにいとゞ人へ行ぬこゝをかくりと我のみやせん

天暦御侍寺合し

中納言朝忠

人にて小ぬせてゝ那思ぬ物のみんこゝろのこゝろ

はしめて女つてしゝ

大宰大貳高遠

みこゝろ小のぬれ若ゝまにけれとも

いわるかりにゝけん女より

謙徳公

唐衣神小人めへはゆゝしきゝ物は後ゝしかれ

左大将朝光五首中雅をりあつきことゝて

つてしけ

前大納言公任

一

三蓮宮豊のありしみ人の花ゆゝ山れしゝ

にまゝ物ゝ物けゝ女しきつゝの御こゝりにつゝ

しゝ

謙徳公

めゝ郡の年小ゝ花ゝ物ゝ親ゝ越め逢坂の関

堀河関白やゝ物ゝ御ゝ物ゝ

とひ物ゝれし

本院侍従

我宿にゝこゝろ物ゝ物ゝ

せし

忠義公

吾思ゝ物ゝ煙ゝ物ゝ

頼しゝ元女

母ゝ

志ゝ物ゝ煙ゝ

清原深養父

なにと山の霞飛こえありけれはなかなかに春やたつらん
おほつかなしにけりしは日も新しくやまものさしてみえもやらぬ
亭子院御歌
正月雨ふり風吹ける日よみ侍りける
謙徳公
春風のふくにもまさる涙かなわかみなかみも
こほりとくらし
水のおもにあやおりみたる春雨や山のみとりをなへてそむらん
題しらす
伊勢
竹おほき所に雪のいたく降りて侍りけるに
君まちて見をなけかれしてふる人のよむ侍
[illegible]二月ころよりもゆけは

和泉式部
[illegible]
[illegible]
藤原興風
[illegible]
中納言家持
秋しもあれ[illegible]
藤原高光
秋風に[illegible]
志かすかに[illegible]
花園左大臣
音[illegible]
和歌所にて[illegible]

摂政太政大臣
もらすなよ雲ゐる峯のはつ時雨このはは下に色かはるとも

和歌所の歌合に忍恋の心を
太上天皇
我恋ハ槙の下葉にもる時雨ぬるとも袖の色に出めや

百首歌たてまつりし時
前大僧正慈円
我恋ハ松を時雨のそめかねて真葛か原に風さはくなり

家に歌合し侍けるに夏恋の心を
摂政太政大臣
空蝉の鳴ねやよそにもりの露ほしあへぬ袖を人のとふまて

寂蓮法師
思ひあれハ袖に蛍をつゝみてもいはゝや物をとふ人はなし

水無瀬にてをのこともに久恋といふ事を
よませ給ける
太上天皇
思ひつゝへにける年のかひやなきたゝあらましの夕くれの空

百首歌の中に忍恋を
式子内親王
玉の緒よ絶なは絶ねなからへは忍ふる事のよはりもそする
わすれてはうちなけかるゝ夕かな我のみしりて過る月日を
我恋ハしる人もなしせく床の涙もらすなつけの小枕

百首歌よませ侍けるに忍恋の心を
入道前関白太政大臣
しのふるに心のひまハなけれとも猶もる物ハ涙なりけり

[illegible]

權中納言長方

[illegible]

法門寺入道前關白太政大臣[illegible]合り

權中納言師俊

[illegible]

和哥所[illegible]合[illegible]

構成太政大臣

[illegible]

隱居[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

相模

[illegible]

葉平[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古今和歌集巻第十二

恋哥二

五十首哥ゟ有りし　小寄雪恋

実太后宮大夫後成女

下萌ゟ有りひきてたゞ煙とて後ゟさやゝ乃そそ有しき

構政大政大臣家百首哥人合りし

有家定家朝臣

たゞしかゝ有し因ゟたきそめて煙ハつゝにくなりけるかとも

百首哥ゟそとにけりし時恋哥

構政大政大臣

恋哥ゟ海の浦人かしほこれ有しあの神のそと知れ

年代ゟ恋とはゝ恋とはゝ

後頼朝臣

君こゝ海とたゞ浦のゝ海りけるに志ほ出てのゝ身ゝ乃

恋恋ゟ

前大政大臣

志ほ出やゝ水の巣ゝ多岩水乃ゆゝ海ゝ小ゝ浦ゝ流てゝ乃と

左大将ゟ持けり時家ゟ百首哥合しゝ時ゟ小恋

恋ゟ

構政大政大臣

ゝとゝ流ゝや為ゝ崩ゝ乃ゝ時ゟ木乃ゝ流ゝ下ゝ浦ゝ多ゝ時ゟ

恋哥ゟ

後徳大寺左大臣

かくこゝ見ふゝとゝ也やまゝ下ゝ水乃ゝ草ゝ如く待ゝ

殷富門院大輔

かさしゝ思ふゝとゝて乃ゝ

[illegible]

水云瀬慈十五首 [illegible]合し夏慈花

構政大政大臣

[illegible]

入道前関白右大臣[illegible]侍百首[illegible]人[illegible]

[illegible]

太宰大貳重家

[illegible]

大納言成道[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言隆房中[illegible]侍[illegible]右近の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言隆房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

皇太后宮大夫後成

[illegible]

水云瀬慈十五首 [illegible]合し

摂政太政大臣
山かつのあさのさ衣をさをあらみあはて月日やすきふける庵

歌合に恋といふ心を
藤原忠定
たのへてもとて月日はかはりとかはらしのいとはしの身

百首歌よみ侍りけるとき
皇太后宮大夫俊成
逢事はかたのの里のさゝの庵しのに露ちる夜半の床哉

入道前関白右大臣に侍ける時百首歌中に忍恋
ちらすなよしのゝ葉くさのかりにても露かゝるへき袖のうへかは

題しらす
藤原元真
白玉の露とみしも今そしる柳の糸もたえてこそ人

女につかはしける
藤原義孝
限りての命もさらぬ年の中に思ひもかけぬ身をいかにせん

崇徳院に百首歌たてまつりける時
大炊御門右大臣
我恋はちきのかたそきかたくのみゆきあはて年のつもりぬるかな

入道前関白家百首歌よみ侍りけるに恋と
藤原実輔朝臣
いかにせん塩屋の風のたよりにも久方のあまの衣はしほたれて

夕恋といふ事をよみ侍る
藤原秀能
藻塩やくあまの磯屋の夕煙立名もくるし思ひ絶なて

海辺恋といふことを

藤原定家朝臣

沢安まの神吹こそ塩風のすゝしくなれとなみたゝすな

摂政太政大臣家の歌合によみ侍る

寂蓮法師

あつさをもけふはなかれの谷の夜川にすゝしき風のやとりけるかな

千五百番歌合

摂政太政大臣

夏かけて今日もすゝしき夜川せの瑠璃のかせにすゝしかりける

百首歌よみてたてまつりしとき

二条院讃岐

涼川なき津の風しやきこせとありしこのてせくらひそなき

摂政太政大臣百首歌よませ侍りけるに

高松院右衛門佐

折ならむあやしくもみえしなは今の神の夜の水のふは

題しらす

よみ人しらす

みなひと月の夜をさとせきかたき神もさしおほゆ

入道前関白太政大臣家歌合に

道因法師

夕ことにみそきの風の成わらへくしけりてこそ春をまつかや

百首歌中に

式子内親王

夏はてゝ今年の夕のみそき川せをやなかしの神風のこゑ

後徳大寺左大臣

かもうちのけふの夜すみてかくわしとをはける

千五百番歌合に

摂政太政大臣

こそ夏きりけ年しらすとも達のみなつきのよにはやうけふ

身小せ[illegible]

[illegible]

大納言實家

[illegible]

五十首[illegible]

前大納言忠良

[illegible]

[illegible]

正二位[illegible]家

[illegible]

[illegible]

賀茂重政

[illegible]

構政大政大臣[illegible]百首[illegible]合[illegible]

中宮大夫家房

[illegible]

舊屋[illegible]

[illegible]

[illegible]

權中納言俊忠

[illegible]

百首[illegible]中[illegible]

惟明親王

[illegible]

右[illegible]督迴具

殿留門院大輔

あとも思ひ命とも思ひ[illegible]

八条院高倉

[illegible]

西行法師

[illegible]

[illegible]

新古今和歌集巻第十二

[illegible]

中関白かしいそめなけるは

儀同三司母

[illegible]

謙徳公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廉義公
明かして逢ふ事[illegible]今宵の[illegible]
百首歌に　式子内親王
逢事をけふまつかえの手向草いく夜しほるゝ袖とかはしる
中将に侍りける時五節所のわらはに物申しそめて後
たつねてつかはしける　源正清朝臣
[illegible]夢に袖は露けき
題しらす　西行法師
あふまての命もかなと思ひしはくやしかりけるわか心かな
三條院女蔵人左近
人心うす花そめのかり衣さてたにあらて色やかはらん
藤原興風
あひ見てもかひなかりけりうは玉のはかなき夢におとるうつゝは
實方朝臣
中々の物思ひそめてねぬる夜ははかなき夢もえやは見えける
志のひては人にこそしらす
伊勢
夢にたに見ゆとは見えし朝な〳〵わか面影にはつる身なれは
題しらす　和泉式部
枕たにしらねはいはし見しまゝに君かたるなよ春の夜の夢
人に物いひはしめて　馬内侍
わすれても人にかたるなうたゝねの夢見て後もなからし夜を
女につかはしける　藤原範永朝臣
つらかりしおほくの年は忘られて一夜の夢をあはれとそみる

謙德公

おもひいそぐ今年の夏し紅葉のさかりつ草木の人の房

清慎公

うし玉の夜の衣をたちぬるかの夏の物とはいはしそ志りしかな

夏の夜の女の許にしまかりて紅葉のうし人にはまる

旧こ夜のさくやうそ逢て侍られしかれ

右京正清朝臣

紅の夜の残りしそ此く交ゆ者と物しき曉の宮

女の見こりかしいそかて朝りつるしかれ

大納言清蔭

あくこの人しきにしかきさまの夜の夏とや君とよるのとこ

三月の時かもしてかり物をうしてかりけり人

のけきにはしと物のとかしまよりしにけるけり

和泉式部

うきはしき歌やとしけれ此にはしきの夜のひこよ夏とな

朝しらせ

和深清門

ふるしきにしけるのかに鴨の夜のはしきにけきの邪

是の所よりて見て物をつるしかれ

九條入道右大臣

俺にはしき君のいしかふこてしけきにはしかしをはしれしかれ

小八条の中とかしつてしけり

尊子院御所

今夜に物をさかはしかしの夏けきにあるはしこけく夜波如

朝しらせ

右京惟成

身とし待て人のこゝろにかはらしとあり恨るかゝるゝ神なか
せつてしけ
皇太后宮大夫清如
よしかはし後の世とこゝろにかけてきに拙ぬことをもて
せし
前京宮家御下
たのみとかはしけるこゝろの是なりてとき世乃中れ
手なりなし
てよ

新古今和歌集巻第十四
恋哥四
中将ゆけるとき女ゆけるしは
清情公
よしかはし君とあれとなしかはしかはしけ様とのまそ云く
せし
よ兼人しけり
君にかはしなしけるとしのかゝ如ゆりは丁ほ
少将滋幹ゆしつてしは
意しかはしかゝ家令とも出て中ふ人なるとこそ人
ふしかは事なりてかはりまして也しとちなして
こゝろりかゝてつてしけるか
謙徳公

あられけるにいろやこれ極りとこそ[illegible]

右清門督通具

[illegible]

宰達法師

恨ひしまうしこ[illegible]

宣秋門院丹後

[illegible]

家に百首六合し物けるり

構政大政大臣

思ひ[illegible]

有家朝臣

[illegible]

[illegible]

頼[illegible]

清人臣

[illegible]

西行法師

[illegible]

入道前関白大政大臣家六合

後恵法師

[illegible]

武子門親王

[illegible]

家六合し

構政大政大臣

[illegible]

前大僧正慈円

定家朝臣

為祭[illegible]

[illegible]

藤原雅經

[illegible]

皇太后宮大夫後成女

[illegible]

新古今和歌集巻第十五

恋哥五

水堂瀬五十首哥合

藤原定家朝臣

白妙の神の斎の[illegible]

藤原家隆朝臣

思ひ[illegible]身深草の[illegible]

前大僧正慈円

野の[illegible]

左近中将公衡

恋[illegible]野の[illegible]

右清門督通具

和泉守

天慶行幸

権中納言

権中納言

参議

左衛門督

右衛門督

新古今集

親長卿

一字頂輪王經

保安三年卿